

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	福岡総研		
事業所名	グループホーム 鍋島紀水苑 さくら		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992-1		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季を通して、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活を支援する事を理念としている。有田焼の器は源右衛門や深川製磁を使用し、佐賀の文化を取り入れている。おやつ時間も大切に、和、洋と丁寧なおもてなしを心がけている。又、菜園では新鮮な野菜を育てたり、芋掘りをしたり、花を摘んだり四季を肌で感じることができる。広々とした庭で好天日にはレクリエーションやおやつの時間など野外活動ができる。食事の面では新鮮な野菜など1日30品目の食材を使った献立でビジュアル的にも完食されるように工夫している。日当たり、風通し共に大変よく、生活環境にも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、周囲に田園風景や河川があり、見晴らし良く、四季を感じさせる場所にある。地域住民とも密接な関係作りをされ、管理者、スタッフ共に「おもてなし」を心がけられ、食器や装飾など佐賀の文化を活かした取り組みが行われている。食事は地元の食材を使用し、食材の品目など栄養面や見た目にも力を入れられており、食事の楽しさを感じられるよう行うなど、一つ一つにこだわりを持って丁寧に提供されている。スタッフの雇用環境にも無理なく仕事ができるよう、意見を抽出した勤務体制や勤務内容など実行されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念に沿ったケアができる様にホールに理念を掲げ皆で共有し、実践している。	入居者や家族にも目で見て理解していただけるように、玄関や談話室に大きく掲示されている。スタッフも勤務年数が長い職員が多く、理念も浸透している。理念を共有しケアが行われてる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつでも地域の方が遊びに来られるように声かけをしている。ご近所からの野菜の差し入れなどがあり利用者が喜ばれている。	地域・地元からの職員もおり、地域との関係作りがしやすい状況にある。野菜の差し入れなどあり、日常的な交流がなされている。自治会等の地域会議への出席もされ、地域とのつながりを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会総会に出席し、認知症についての話をさせてもらっている。また、おたっしや本舗にも出席して貰いより理解して貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に自治会長、民生委員に出席して貰い、クリスマス会には地域の方々が参加され、出し物等にも協力をして貰っている。	2ヵ月毎に各関係者が集って開催している。時には地元自治会の中で運営推進会議を開催するなど、地元とつながりを重視している。出された意見は、運営への意見抽出などを取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おたっしや本舗主催の会には殆ど出席し、交流を図っている。また、年度末の自治会総会には共に出席し地域との交流を共有している。	地域包括支援センター主催の地域ネットワークへ毎回出席されている。市役所への手続き、相談などその時々で訪問し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、また、出口すぐに階段があるため、玄関の施錠をしているが利用者が玄関に行き、出たいと要望がある時は、できる限り一緒に外に出る様にしている。	代表者、職員は、身体拘束をしないケアについて理解をしているが、職員が手薄な時など、やむを得ない場合には、玄関の施錠をしている。	階段付近での転落防止のため玄関の施錠をしている。職員配置等に配慮されながら、徐々に施錠を解除できる取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ勉強会で取り上げ、意見交換をしている。また、市の研修会などには参加するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を利用している人がいるため、職員は良く理解し、支援している。(入院時)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしている。解約時はできるだけスムーズにいく様に、約束より前倒しでも了解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり相談に乗ったり、話し合いをしている。職員の勤務期間が長く家族とも信頼関係が出来ていて、色々な相談にも乗っていて家族のような関係が出来ている。	家族の来訪は多く、その都度意見交換が行われている。家族にも「おもてなし」を心がけられ、話しやすい環境をつくれるよう配慮されている。ホームの便りは、本人の様子が家族に分かりやすいよう工夫し、毎月送られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議に出席し、意見を聞き、尊重している。また、年2、3回食事会を設け、意見交換をしている。特に代表者は職員の職務姿勢に感謝し職員の意見に沿うように努めている。	代表者は職員に対し、感謝の念を忘れることなく接している。スタッフも意見を言いやすく、すぐに反映される取り組みを行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々が、長所を生かせるように環境づくりに努めている。また、正規社員を多く雇用し、非正規社員にも賞与等の支給をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内がある時はいつでも参加できるように働きかけをしている。参加費は内容に応じ出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズ同士で交流研修があり、その成果を本部の勉強会で発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を真剣に聞き取り、安心・信頼を保てる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をし、負担の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向、要望を確認し、収集分析した情報、原案を検討し、できるだけ要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除、昼食の準備片づけ、洗濯物干し、たたみ等自分でできる事は時間がかかってもして頂いている。時にレクリエーションのリーダーにもなって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は居室で過ごしていただき、お茶のおもてなし等を自宅でくつろいでいる様な雰囲気作りをしている。また、苑側のおもてなしの心にも気遣いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使っていた馴染みのものを、家族にできるだけ持ってきて頂いている。また、友人や親せきの方々が面会に来やすい様な雰囲気作りをしている。(居室の整理整頓、おもてなし等)	友人や知人がいつでも訪ねてくれるよう「おもてなし」を心がけられ、一緒に楽しめる雰囲気を作られ、関係を継続できるような取り組みがなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者に暴言を吐く人がいたりする為、雰囲気が悪くなると、職員が中に入り、話を楽しい話題に変えたり、違う事をしてもらったりと気配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、苑を退去されても、見舞いに行ったり、家族が遊びに来苑されたり、連絡頂いたり、今でもそういう関係が続いている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や介護計画の見直しの際に本人の意向や要望を聞き、感じ取り、プランに反映させるように努めている。	本人、家族の意向を計画に反映させ、本人の満足度をチェックリストでモニタリングされている。本人の自己表現が難しい場合にも、表情、家族の意向などで読み取るよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報、家族、他の事業所、ケアマネージャーからの情報により、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個々の状態観察を行い、経過記録に記述し、スタッフ間の情報をこまめに行い、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にスタッフ会議を開き、意見を聞いたうえで、本人・家族の意見要望を取り入れ、本人の現状に適したプランとなるように介護計画を作成している。	本人、家族の意向を下にスタッフ会議やスタッフ間の意見交換などで、計画立案、モニタリングを行っている。現状に適したプランを話し合いながら作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子反応や変化を見逃さずに経過記録に記入し、毎月のスタッフ会議で見直し、状態を把握し随時適切なケアが出来るようスタッフ間で情報を共有しながら適切に対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合った支援を心がけている。本人が何を望んでいるかを理解し、それに沿ったケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回の運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、交流を図っている。クリスマス会には、多数参加頂き、余興などにも参加して頂いている。消防士の方には会議時に指導して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診が基本だが、家族の要望があれば協力医療機関にお願いしている。契約時に決めている。訪問診療も利用可能。	近隣の協力医療機関の受診はもちろん、本人の状態に合わせた診察の仕方、往診の対応も行われている。専門医の受診なども必要に応じて対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に、僅かな変化も見逃さないように気配りし、少しでも問題がある時は看護師や医師に相談している。看護師は週1回勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師とは日頃から話しやすい関係にあり、相談しやすく、家族も安心されている。入院時は面会に行き、医師、看護師とも話をし、早期退院を促す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ経験はないが、契約書にうたっていて、契約時に説明をしている。	長く入居され、高齢化されている入居者も居られる。重度化に合わせて、あらゆるケースに対応できるよう研修へ参加し、伝達研修により職員のスキル向上に努められている。重度化した場合は、その都度、本人、家族、主治医と話し合いを行い、方針を共有し、出来る限り意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も幾度か経験があり、その都度皆で話し合い、持っていくもの等よりスムーズに対応できるようにしている。また、電話の前にマニュアルを貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしていて、スピーディに行えるようになっている。近所、地域住民との交流もあり、災害時の協力をお願いしている。11月の推進会議では、地域の消防士より、災害対策計画についての説明・指導して頂いている。	地域との連携により、地域で想定される災害について、防災訓練が行われている。近隣の消防関係者を招いて研修を行うなど、防災対策に熱心に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手にこちらの言う事が分かっていると思いつながりながら会話をしている。お年寄りも皆、人生にプライドを持っていることを常に意識しながら対応している。	言葉使いには特に注意をされている。ご家族へも職員の対応について説明を行いながら、入居者の尊厳を意識して対応され、職員研修等でも話し方について勉強されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望や思い等を聞き出し、本心を見極めながら、できるだけそれに沿ったケアを心がけている。(個別レクレーションや服装)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と利用者のどちらかを優先すると、どうしても無理がいき、職員の負担も大きくなるため、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけやイベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでおしゃれを楽しんで貰っている。美容員(スタッフ)に化粧の実演をしてもらうこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの1つと考え、好物を聞いたり、皆で献立を考えたり、料理方法を尋ねたり、テーブルを囲んで盛り付けなどを楽しんでもらっている。器は、有名有田焼を使用し、目でも楽しめるように心配りしている。準備や後片付けなど、できる人には手伝って貰っている。	食材はもちろん、食事を作る過程から楽しみと感じていただけるように、一緒に調理をする等、取り組まれている。見た目にも有田焼の器や入居者の手作りのマットなど、その時の行事、季節に応じて入れ替え、目でも楽しめる食卓作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では、1日30品目の献立で、完食できる量を提供している。水分補給は日々、十分に行っていて、特に病気の時は量も記録し、全体量をチェックしている。入居時より栄養状態が改善されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしている。できない人は介助している。2週間に1回の歯科往診あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を見ながら排泄パターンを把握し、促す。夜間頻尿者には、就寝前に居室にポータブルトイレを設置している。	夜間頻尿者へは負担を軽減するためにポータブルトイレを設置し誘導されている。家族や本人、スタッフとも相談しながら個別の排泄パターンを模索し対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどがカマグを服用されているが、マイナス日が続くと特別に牛乳、ヨーグルト、繊維質の食材を提供している。おなかとお尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂だけにかかっているため、また、めりはりのある生活パターンを支援するため、火・木・土と決めている。特別に入りたい方はできる限り応えている。面倒なのか基本的に入浴拒否が多い。お風呂のない日は皆さん落ち着いてレクレーション外出等ができています。	その日のレクリエーションや活動などが行えるよう、定期的な入浴日を設けているが、時間や曜日など希望者があれば、柔軟に対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居室で休まれたり、ホールソファで休まれている。日夜逆転しないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届けられた時、内容をチェックし、日勤者が1人1人の1週間分を作り、事務所に保管している。また、小分けにした1日分は事務所に置き、食事の度に食堂に準備し、手渡し、確認している。一包一包に名前、日にちを記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的に新聞を取っている方がいたり、婦人雑誌等いつでも見られる様にしている。絵が上手で好きな方は午後は居室で描かれていて、皆さんに披露されている。額に入れ、玄関に飾ったりもしている。編み物をされる方もいる。また、歌が好きな方には歌本を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	観劇や花見など希望者を募り出かけている。遠出や外出が無理な方には、好天日に時折お茶の時間を苑庭で過ごして頂いている。また、ホールや窓際カウンターでお茶の時間をすごしてもらい、出かけた気分になって頂くように工夫している。	庭は広く、周囲は田んぼが広がる静かな環境で、散歩が行われている。個別の心身能力に応じて、家族の協力による外出支援も行われている。外出が難しい方も、ゆったりと外の景色を眺めるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が理解できる方には必要時に家族から現金を渡してもらい、本人から徴収しているが、それにより混乱が生じた時は家族に相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を取っていて、要望があればいつでも電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールの壁には季節感を出すために、折り紙などで飾りを作り隔月変えている。屋内はととも明るく、南北に窓があり、風通し・日当たりがよく、洗濯物や布団など外に干す事ができる。また、調理器具も陽に当てることができて衛生的である。苑庭にはもみじもあり、秋にはもみじ狩りもしている。	季節感のある装飾品や、入居者の手作りですくさんの壁飾りを作り、季節に応じた変化を感じられるようにされている。風通しや日当たりもよく、定期的な空気の入替えにより、いつも衛生的な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓以外にも丸テーブルや2人用テーブルがあり、また、窓際はカウンターになっていて、庭を眺めながらお茶をすることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し、使い慣れたものを持ってきて頂いている。時々交換をお願いしている。混乱を招く時は家族に相談する。	入居時に家族と話し合い、自宅にある好みの家具等を持ち込まれ、個人の好みに合った環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かりやすく表示をし、居室入口には本人と分かるように写真を貼り、自室を確認して頂いている。		